

## ジョブ・スケジューリングの手動操作で回り道をしていませんか？

FAQS/PCS for VSE はデータ・センターのバッチ業務の自動化を実現します。

手動操作の介入無しにシステムの諸機能を自動化し、

イベントの実行を人為ミスから開放します。

スムーズで確実な運用体制の構築を実現し、エンド・ユーザに  
高いサービス・レベルを提供できます。



# FAQS<sup>®</sup> / PCS

## for VSE

販売元



株式会社 **パラドックス**

〒107-0052

東京都港区赤坂 3 - 2 - 2 アマンド赤坂ビル 8F

TEL:03-3505-5331 / FAX: 03-3505-5386

e-MAIL: paradox@kkparadox.co.jp

URL:<http://www.kkparadox.co.jp>

# FAQS®/PCS for VSE

(Production Control System)

(適用 OS : VSE/SP, VSE/ESA)

## FAQS/PCS for VSE の特長



ジョブのスケジューリングだけでなく、コンソール・メッセージやユーザ・メッセージなどのイベントに応じてスケジューリングを行います。オペレーション・ミスをなくし、処理時間の短縮が可能です。

再実行やスタートが簡単にできます。

システムの諸機能を自動化し、JCL のサブミット及び保守を標準化し制御できます。

FAQS/PCS は VSE/ESA 環境でトータルな利用を可能にするよう機能拡張されています。

### イベント・スケジューリング

FAQS/PCS によって、ユーザはスケジュール対象のイベントが毎回エラー無しに確実に実行されるようスケジュールすることができるようになります。イベントとしては次のものがあります。

- ユーザ・ジョブ
- VSE のオペレータ・コマンド又は POWER コマンド
- VMCP コマンド
- FAQS/PCS コマンド
- コンパイルされた REXX EXEC

### ワークステーション機能

FAQS/PCS のワークステーション機能は、イベント処理の前に必要とされる手操作条件のチェックリストを集中化し、オンライン化します。

### 会計、監査、安全保障

FAQS/PCS はまた、広範な会計および監査機能を備えています。各ジョブが使用した資源の量をチェックします。また、いつ誰が JCL を変更したかを監視します。この情報

はオンラインでの表示や、バッチ/ユーティリティを使用してプリントすることができます。

### テープ出庫リスト

FAQS/PCS のオンライン・テープ出庫リスト機能は導入先のテープ管理システム (BIM 社の EPIC/VSE など) とインターフェースがあります。これは特定のジョブ、時間的期間、あるいは勤務シフトに対して、どのテープ・ボリュームが必要かをオペレータに示します。

### オンライン・インターフェース

FAQS/PCS は CICS, VTAM, CMS とのオンライン・インターフェースによりユーザが必要な情報を表示し、自動的に諸機能呼び出すことができます。

### 予測

FAQS/PCS はオンラインやバッチによるスケジューリングの予測リストを出力します。

この予測は、ジョブ・ワークロードについての分かり易い診断によって、スケジューリングのボトルネックを防止します。また、これを使用してハードウェアまたはソフトウェアの保守に一番都合の良い時間を選び出す事ができます。

### 融通の利く JCL 実行ストリームの変更

FAQS/PCS では、SAA に準拠した REXX のインプリメンテーションを含めて幾つかの方法でジョブの再始動及びクリーンアップが容易にできるようになります。ジョブの実行に先立って、実際の日付または JCL 置換を含めて、JCL 実行ストリームの変更ができるようになっています。また、ジョブの実行中に JCL 実行ストリームを変更する事もできます。

### CICS との通信

FAQS/PCS のバッチ・ユーティリティは CICS に対して定義されている VSAM ファイルと DL/1 をオープンおよびクローズする事ができます。又、CICS に対して CICSSEMT コマンドを渡す事ができます。

## プロダクトによる統合化

GoalPlex と呼ばれるプロダクト統合化アーキテクチャによって真の意味で VSE プロダクトの統合化を実現できます。各プロダクトは外観や使用感覚が共通であり、コマンド、インターフェース、画面設計および PF キーも共通の仕様になっています。関連プロダクトに対して、単一のテープおよびインストレーション手順が用意されており、プロダクトに関する学習効果が上がります。このように複数のプロダクトでは、優れた統合化により個別のプロダクトの総和を超える価値が得られます。

